

(令和2年)11月14日(土曜日)

持続可能な運営

今の時代に合致

協同労働

【各党に聞く】

に振り回されてきた社会は、豊かになったように見えても必ずみが生まれている」

「新型コロナウイルスの感染拡大の影響も大きい。」

「超党派で議論してきた労働者協同組合法案の狙いは。」

「多くの諸外国で労働者協同組合の法制度が既に整備されている中、日本も急いで具体化を進めてきた。グローバル化や東京一極集中といった資本、経済

待するか。どんな事業形態の参入を期

国民・舟山康江議員



ふなやま・やすえ 1966年、埼玉県生まれ。農林水産省を経て、2007年参院選で旧民主党から初当選（山形選挙区）。16年に無所属で再選。国民民主党政調会長。

「いろいろな悩みを抱えるが一人では無理だというような子育ての支援や福祉の分野。現状はNPO法人や事業協同組合の形で運営していると思うが、労働者協同組合の方が意見を出したり、一緒に働いて課題に取り組んだりという点で親和性がある。また、出資してバイオマスや小水力など地域の発電所を造り、電力を分け合うような地域分散型のエネルギー事業も向いているのではないか」

「世界の中で『分断と集中』による問題が顕在化している。分断から協調、集中から分散。誰かがばるもうけするのではなく、分かち合って必要なものをつくっていく。効率化とは逆の生き方が求められている。大きな資本がなくても、一人一人が身の文に合った出資で事業をつくる。社会に貢献できれば、働く喜びにもつながると思う」

「コロナ時代に労働者協同組

（聞き手・柚木まり）